

第5期 日韓理工系学部予備教育コース

李 澤 熊

1. 概要

第5期日韓理工系学部予備教育コースは、平成16年10月4日から平成17年3月10日までの6ヶ月間(実質20週)、3名の学生を対象に開講された。このコースは、工学部入学後、勉学や生活に支障のないように、日本語運用および専門基礎能力を養成するために行われるもので、日本語に関しては、日常生活に必要な会話練習のほか、科学読み物を読む、レポートを書く、講義形式のまとまりのある話を聴く等の練習が行われる。また、教養科目、日本事情の授業を通じての異文化理解教育も含まれる。専門基礎教育に関しては、数学・物理・化学の各科目について、入学後工学部の講義を無理なく受講できるように、専門用語の習得を予習することを主眼に行われる。このほか、工学部で短期留学プログラムのために英語で開講されている入門講義等を受講し、英語で専門分野の講義を聞く訓練も含まれる。

以下、日本語のプログラムについて報告する。

2. 期間と内容

スケジュール

10月4日	歓迎会
10月5日	学習オリエンテーション
10月6日	生活オリエンテーション
10月7日	日本語診断テスト
10月12日	開講式
10月13日	授業開始
10月27日	バス旅行(奈良)
11月8日	トヨタ自動車見学
12月27日 ~ 1月7日	冬休み期間
2月1日	工学部入試のため休講
3月8日	レポート発表
3月10日	閉講式

表1. 科目別時間および担当者、内容

科目	コマ数	担当	内容
日本語	10	留学生センター教官・謝金講師4名	会話練習・聴解・文法・作文・読解・漢字
専門科目	3	工学部教官・謝金講師3名	物理・数学・化学
日本事情 授業見学	2	留学生センター教官・謝金講師	ビデオ・新聞等 課外学習
全学教養科目	1	留学生センター教官	日本人学生との合同クラス
専門英語	1	工学部教官	NUPACE 工学部授業

昨年と同様、5期生は10月初旬に渡日できたため、予定通り順調に進んだ。4期生からは予備教育に入る段階で、すでに大学配置が決まっていたため、勉学への意欲が低下し、問題となっていたが、今回本学に配置された3人に関しては、そういった問題は見られなかった。

2月末までは、主に教科書による日本語学習が行われた。時間割と主なテキストは以下の通りである。

表2. 時間割

	1限	2限	3限	4限
月	作文	教養科目	数学	
火	読解	文法	物理	
水	会話・練習	NUPACE 専門授業	聴解	会話・語彙
木	聴解	会話・練習	化学	
金	会話・練習	漢字・語彙	日本事情	授業見学

主なテキスト

会話：「現代日本語コース中級」名古屋大学出版会

聴解：「現代日本語コース中級」聴解ワークシート」名古屋大学出版会

作文：「留学生のための理論的な文章の書き方」スリーエーネットワーク

読解：「大学・大学院 留学生の日本語 読解編」アカデミック・ジャパニーズ研究会

漢字：「KANJI IN CONTEXT 中・上級学習者のための漢字と語彙」The Japan Times

会話、聴解に関しては「プリテスト」「復習シート」などの補助教材を使用しながら、日本語運用能力の基礎を固めることを目指した。3課ごとにテスト（筆記テストおよび話すテスト）を行った。

作文では、レポート作成に必要な基礎知識を身につけることを目標に、「要約の仕方」「引用の仕方」「図やグラフの説明」などについて学習した。

読解・漢字は学部入学後、専門の授業で必要となる基礎知識を養成することをねらいとして、漢字の読み書き練習、様々な科学読み物の学習を行った。

日本事情では、「博物館見学」「新聞社見学」などの課外活動を通して、日本の文化を理解した。また、日本の大学生生活に慣れるために、学部や研究室の授業見学も行った。

最終の2週間は個人指導によるレポート作成と口頭

発表を行った。学生が作成したレポートのタイトルは、「睡眠」「時間について」「スペースシャトル」であった。3月8日の発表会には日本語教員のほか、工学部教員・T Aや先輩学生の参加があった。

3. その他

昨年と同様、受け入れに先立ち、9月に韓国における予備教育機関である慶熙大学を留学生センターの職員とともに訪問した（写真参照）。その中で、5期生と面談し、不安に思っている点などに答えた。また、名古屋大学での予備教育のカリキュラム・シラバスやハンドブックなど印刷物による大学情報の提供を行った。本学では、従来からインターネットのホームページの充実をはかっており、既に学部に進学している1期生から4期生の学生たちとの交流がインターネットのチャットなどを通して活発に行われているが、予備教育担当教員が直接予備教育機関を訪問できたことは、学生・教員双方にとって大きな意義があった。

今回の5期生は、受け入れの際は4人であったが、途中1名がコースの辞退を希望したため、予備教育の修了者は3名となった。辞退の理由は進路変更である。本学でコースの辞退を希望したケースは今回がはじめてであるが、今後このような進路変更が理由で辞退することがないように、選抜試験の段階で何かしらの工夫が必要であろうと感じた。



韓国慶熙大学にて